

## 助けられた証

大阪市立新豊崎中学校3年 澤田 紗那

十五年前の朝、出産予定日より二日早く、私は自宅のリビングで産まれた。母が自宅出産を希望していたわけではない。実は、病院に間に合わず、私が母のお腹の中から出てきてしまったのだ。私の母子手帳には「自宅にて出産、救急車にて入院」と書かれている。そして、産まれた時間は正確に分からないため、父が119番に携帯電話でかけ、履歴に残った「午前九時八分」になっている。それは私が生まれ、社会の一員となり、初めて税によって助けられた証でもある。

父が出勤するときに、陣痛が始まった母は、不安に思いながらも、父を送り出した。病院に電話をし、状態を説明すると、ゆっくり来るように言われた。しかし、その電話を切った後、母は突然動けなくなった。救急車を呼ぶことを躊躇した母は、とりあえず父に電話をした。父は急いで戻り、車で病院に行こうとしたが、もう頭が出てきていて、母は諦めて、その場で私を産んだ。私がすぐに泣かず、やっと泣いても小さい声で、とても心配したようだ。父は私を受け止めて、119番にかけた。「赤ちゃんが家で産まれてしまいました！」数分で救急車が到着し、救急隊員の人へその緒を切った。私は救急隊員の人に抱かれて、母は担架で運ばれ、救急車に乗って病院に入院した。私は低体温症になっただけで、大事には至らなかった。もし、母がもっと早く救急車を呼んでいれば、救急車の中で無事に産まれていたかもしれない。反対に、救急車がすぐに来られない状況にあったら、私の命にも関わっていたかもしれない。

日本で救急車が無料なのは行政サービスの一環で、その費用は税金で賄われている。ちなみに救急車は一回の出動で約四万五千円かかる。外国からの旅行者でも誰でも無料で利用できる。救急車が無料の国は珍しく、海外では有料の国がほとんどである。日本は大変恵まれていると思う。それにより年々救急車の出動件数が増え、救急車が到着するまでの時間が長くなっていることが、今問題になっている。皆が適正に利用するだけで一千億円以上の税金の節約になるらしい。本当に必要な人が使えるように、もっと利用者の一人一人が問題意識を持つべきだと思う。

この税の仕組みがあるからこそ、私たちの生活が成り立っている。これから先の未来、誰もが公平に暮らせる社会を維持していくためにも、正しく税を使う必要がある。少子高齢化など日本の抱える課題も多く、将来を担う私たちの世代が、税のあり方を真剣に考え、対策していかなければならない。

私は将来弁護士になり、目の前の人々の役に立ちたい。そして、納税することで見えない誰かを支えたい。憲法で定められているように、納税は国民の義務である。租税負担にばかりに目がいくが、受益を守るためにも、改めて税金の使い道に関心を持ち、今一度その大切さを認識する必要があると私は思う。